

平成30年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「おみごと！」な 麻績のお宝再発見事業 ～麻績村ヒストリー アーカイブ大作戦～
事業主体 (連絡先)	麻績村 教育委員会 (0263) 67-4858
事業区分	(3) 教育及び文化の振興に関する事業
事業タイプ	ソフト事業
総事業費	1,422,521 円 (うち支援金 : 949,000 円)

事業内容

麻績村に残る貴重な文化財や地域住民の生活に深く関係した文化や風俗などの「お宝」や、放っておけばなくなってしまう麻績の歴史を語る人材の話(知的財産)をアーカイブ化して、わかりやすく・親しみやすいような形で残し活用していくことを目的とした。

- ・麻績の語り部 アーカイブ(映像資料として保存)
- ・麻績ヒストリー 写真パネル
- ・「麻績の文化財マップ」作成
- ・冊子「麻績村の文化財」作成
- ・善光寺街道 旅籠花屋リーフレット作成
- ・埋蔵文化財マップ作成
- ・アーカイブ映像資料 閲覧備品整備



【若い世代への語り伝え】

【目標・ねらい】

- ①歴史や文化財への意識の向上
- ②麻績に残る「お宝」の掘り起し
- ③映像等によるアーカイブ化
→ 継続的な取組を重視

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

- ・「今残すことを始めていかないと何も残らなくなる」ことへの危惧が住民に届き意識の向上につながった。
→ 20～30代の若者が入った公民館歴史研究クラブ「学部(まなぶ)」が発足
活動を休止していた「麻績の歴史を学ぶ会」の活動再開の動き
- ・形で残るものとして作成したパンフレット等が生徒の学習資料としても活用できるものとなった。
- ・いくつかの歴史資料を作成したことで、麻績の現状を示した資料となり観光を含めた様々な活用となった。

※自己評価【C】

【理由】

住民の意識の向上等には一定の効果があったが、計画的な事業実施が出来ず、語り部や歴史証人の映像化が計画通り出来なかった。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

・文化財や歴史等に係るソフト事業には財政支援が少なく、予算を伴う事業実施はなかなか計画的に進まない。しかし歴史を語る地域の証人は年々少なくなっているのが現状で、村の歴史文化のアーカイブ化は必須なものである。今後も同事業を継続して進めることで地域や関係団体の盛り上がりが見込まれ、幅広い活用に向けた地域の取り組みに繋がることが期待できる。

※自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」: 予定を上回る効果が得られた 「B」: 予定していた効果が得られた

「C」: 一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある